

# Interview

先生の声

障がいの  
ある子も、ない子も  
多様な個性に  
向き合う経験を

社会学部 米原 立将 准教授

流通経済大学の社会学部は開設以来、地域と密接に関わってきました。私は学生とともに、龍ヶ崎市で開催されるキャンプやクリスマスイベントなどの福祉イベントをお手伝いしています。今回の縁日での「水でっぼう 的あて」のように学生たちはアトラクションを企画することもあります。大事なのは、自分たちでも実際に遊んでみて、楽しかったところをより楽しく、難しいところをやさしくするようにアレンジしていく作業。小さい子や力の弱い子など、さまざまな子どもたちが楽しめるよう配慮を重ねていきます。

保育士として就職する学生も多いですが、大学時代に多様な子どもたちと関わり合いを持つことで、それぞれの個性に寄り添う広い視点を持ってもらいたいと思います。授業を経験した学生が卒業後、龍ヶ崎市や関連団体の職員になって、再びイベントに携わってくれることもあり、その時は本当に嬉しくなりますね。



よねはら たつまさ / 愛知県出身。東京大学法学部卒業後、大学院で教育学を学び、多機能認可保育園の園長を務めた。

## 後輩でもあるみなさんとの協力を大切に

私自身、まだ開設間もない頃の社会学部で学んだ、流経大の卒業生です。後輩のみなさんが積極的にイベントに関わってくれることを嬉しく思います。



社会福祉法人 龍ヶ崎市社会福祉協議会 寺崎 真さん

ヨーヨー釣り

お菓子すくい



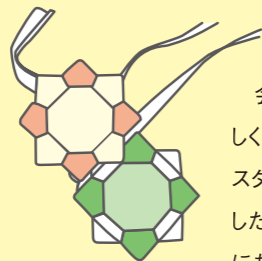
射的



プレゼント



スタンプと引き換えにプレゼントをゲット!



## エスコートとメダルで「おもてなし」

会場内では、学生が子どもたちと一緒にブースを回り、やさしく声掛けをしながらエスコート。最後には、各ブースで集めたスタンプと引き換えに、折り紙で作られたメダルをプレゼントした。たくさんのお土産を携えた子どもたちの表情は、達成感にあふれていた。

真剣に遊ぶ子どもたちの姿に、手応えを感じました



中山 侃太さん 社会学部 社会学科 4年

なかやま かんた / 千葉県出身。学生のリーダーとして、「水でっぼう 的あて」を企画。

子どもたちのかわいい笑顔に感激!



張 雪芹さん 社会学部 社会学科 4年

チョウ セツキン / 中国・重慶市出身。日本の幼児教育に興味を持ち、保育士資格取得を目指し留学中。

# 子どもたちの夏の思い出をプロデュース



おもちゃの金魚すくい



縁日の定番といえばやっぱりコレ!

## みんなが楽しめる遊びを追求

学生が手に持った的をめがけて、子どもたちが棒状の水鉄砲を噴射! 紙が破れたらクリアという仕組みだ。面積が大きな半紙から、金魚すくいなどで使う「ポイ」まで、子どもたちに合わせて、的の難易度をその都度調整。みんなが楽しめるように工夫を凝らした。

水でっぼう 的あて



お兄さんやお姉さんが持った的をよーく見て狙ってね!

Regional Collaboration  
04  
障がい児交流

障がいの有無にかかわらず、子どもたちが交流し、理解を深め合う——。龍ヶ崎市の社会福祉協議会とボランティア協議会が共催するイベントに、米原立将准教授のもとで保育を学ぶ学生たちが参加している。2022年8月には「ふれ愛縁日」と題して、地域福祉会館で開催された。

子どもたちに楽しんでもらうため、学生たちはチームごとにブース案を企画。担当者へプレゼンテーションを行い、「水でっぼう 的あて」が採用されることとなった。その後も話し合いを重ねて、難易度や道具を細部まで調整した結果、当日参加した子どもたちは大喜び。いきいきと遊ぶ様子を見守った保護者は、「コロナ禍で外出しづらい状況で、安心して遊べる場を用意してもらい、親子にとって楽しい思い出になりました」と話した。